

# 第36回「議員と語りかい」報告書

総務環境常任委員会 (No.1)

開催日	令和 3 年 7 月 2 9 日 (木) 午前 1 0 時 ~ 1 2 時		
開催場所	霧島市役所 議会棟 4 階 第 3・4 委員会室		
団体名	霧島市文化協会	参加人員	7 人 (男 5 人 : 女 2 人)
出席議員	徳田 修和、松枝 正浩、山口 仁美、愛甲 信雄、木野田 誠、 前島 広紀、有村 隆志、前川原 正人		
役割分担	班 長 ( 徳田 修和 ) 副班長 ( 松枝 正浩 ) 記録係 ( 前川原 正人 )		
テーマ及び具 体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 文化活動発表施設の増設</li> <li>② 文化協会員の高齢化対策</li> <li>・音響、照明を備える施設が少ないので、希望日の予約に苦慮している。</li> <li>・(例) 多目的ホールは、照明が暗い、音響設備が不足等</li> </ul>		

	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
意見交換での主な意見等	<p>◆隼人農村環境改善センターの空調が故障しており、コロナ禍で窓を開けている状況である。早めに対策をしてほしい。</p> <p>◇これまでも一般質問で取り上げてきた。霧島市の施設数は多く、年次的な取組が必要である。引き続き取り組んでいきたい。</p> <p>◆市民ギャラリーにもパネル展示させてもらっているが、雨漏りしたことがあり、改修してもらった。また、協会の取組についても、市報などでアピールしてほしい。 (要望)・・・文化協会の内容をほとんどの方が知らない状況がある。市の広報誌に文化協会の取組や活動を紹介してほしい。</p> <p>◇秘書広報課にも伝えていく。</p> <p>◆文化協会も改革のために、情報発信（ホームページ作成）に取り組んでいる。子どもたちに対するアピールとして「まんが、アニメ」ではないかと考えているが、そのことにより若年層への掘り起こしにつながるのではないかと。</p> <p>◇子どもたちは「デジタルの世界」に入っているのではないかと。オンラインで、発信の仕方があるのではないかと印象がある。文化協会も今の活動を充実していくことが必要ではないかと考える。</p>

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

◇高齢化対策について、どう取り組んでいるのか。

◆高齢者と若い人たちの両面の取組が必要と思う。

◇前は、協会への補助金が減ったとのことであったが、財政面での支援はどうか。

◆予算は年間、171万円で144団体、会員2200人が活動しているが、会員数が少なくなれば、予算も減らされボランティアで活動している状況がある。文化祭を開催する場所の確保で苦慮している。文化協会の人材は豊富なので、「専門家」に話に行く前に文化協会を使ってほしい。高齢者も若者も文化には関係ない。市の方も文化協会の存在をもっと認知してほしい。民泊という宿泊業があるが文化を見るところで「文化泊」というのもあり得るのではないか。

◇行政の方で調整できないか伝えていく。

◆みやまコンセールの予約が取りづらくなった。県と市の関係を構築する必要がある。

◆多目的ホールが暗く、照明、音響、舞台が狭い等、機能性に劣っているが、もっと改善できれば利用者も増えるのではないか。また、ロビーの物品を載せるテーブルが少なく改善してほしい。

◇行政に要請していく。

◆みやまコンセール（土日以外は使われていない）の活動日数が少ないと思う。中学校、高校生の音楽発表会の開催はできないのか。

◇みやまコンセールの稼働状況を確認する。

◆文化振興議員連盟の取組をしてほしい。

◇議会のなかで他の「議連」もあるが、コロナ禍で動けない状況がある。

◆文化協会は、議員のみなさんを尊敬している。各支部でも、「何でも相談できる議員、仲間」として協力できるようにしていただきたい。

◆霧島公民館は、「耐震」がなく、協会支部として使えない。

◇福祉センター（神の湯近く）に移転することを予定していると聞いている。いつ頃に移転するのか確認する。

意見交換の主な意見等